

Team Le Mans

2019年 SUPER FORMULA シリーズ Round.2 オートポリス レースレポート

UOMO SUNOCO TEAM LEMANS

UOMO SUNOCO SF19

#7 Artem Markelov

#8 Kazuya Oshima



大会概要／大会名称

2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第2戦 オートポリス

開催日時

5月18日 土曜（予選=荒天のため翌日の朝に順延） 5月19日 日曜（予選&決勝）

開催サーキット

オートポリス 国際レーシングコース（1周 4.674 km） 所在地：大分県日田市上津江町上野田1112-8

同時開催レースカテゴリー

- ・TCRジャパンシリーズ2019 第1戦（サタデー&サンデーシリーズ）
- ・2019年 全日本F3選手権 第3戦&第4戦&第5戦
- ・N-ONE OWNER'S CUP 2019 Rd.4

主催

オートポリス倶楽部 / 株式会社オートポリス

公認

国際自動車連盟（FIA） / 一般社団法人 日本自動車連盟（JAF）

認定

株式会社日本レースプロモーション（JRP） / 日本フォーミュラ3協会（JF3A） / Honda ワンメイクレース事務局（HORS）

協力

株式会社ブライト / 株式会社テレビ熊本（TKU） / 阿蘇市 / 大分県

後援

スポーツ庁 / 観光庁 / 大分県 / 熊本県 / 日田市 / 竹田市 / 菊池市 / 阿蘇市 / 柳川市 / 大津町 / 小国町 / 南小国町 / 産山村
上記市町村の各教育委員会 / 日田市観光協会 / 竹田市観光ツーリズム協会 / 菊池観光協会 / 阿蘇市観光協会 / 柳川市観光協会
肥後おおづ観光協会 / 小国ツーリズム協会 / 杖立温泉観光旅館協同組合 / 南小国町観光協会 / 産山村観光協会



◆ UOMO SUNOCO TEAM LEMANS 参戦体制

■ ドライバー



#7 アーテム マルケロフ
ARTEM MARKELOV

生年月日 1994年9月10日
出身地 ロシア
身長 182cm
体重 73kg
血液型 RH-O

■ 監督



片岡 龍也
TATSUYA KATAOKA

生年月日 1979年5月1日
出身地 愛知県
身長 168cm
体重 75kg
血液型 RH+O



#8 大嶋 和也
KAZUYA OSHIMA

生年月日 1987年4月30日
出身地 群馬県
身長 171cm
体重 61kg
血液型 RH+A

■ スタッフ

#7 チーフエンジニア	森藤 健吾	#8 チーフエンジニア	阿部 和也
#7 チーフメカニック	小倉 啓悟	#8 チーフメカニック	北井 修司

■ スポンサー

日本サン石油株式会社	TONE株式会社	リンテック株式会社
株式会社集英社UOMO	大同基礎工業株式会社	アシックスジャパン株式会社
株式会社前田シェルサービス	城東電機株式会社	トヨタカスタマイジング& ディベロップメント株式会社
株式会社オウルテック	株式会社ニチネン	トヨタ・ヤング・ドライバーズ・ プログラム
DMG森精機株式会社	株式会社不二WPC	トヨタ自動車株式会社
カトー機械株式会社	引田時計店	横浜ゴム株式会社
エバー株式会社	広島化成株式会社	
株式会社三笠製作所	エンバイヤ自動車株式会社	



◆ 予 選

天気	雨
コース状況	ウエット
気温	17度 (予選開始時)
路面温度	17度 (予選開始時)
予選開始	決勝日の朝8時45分



今季も全7戦で争われる全日本スーパーフォーミュラ選手権、第2戦の開催地は九州地方のモータースポーツの中心地、大分県日田市のオートポリスである。中高速コーナーが続き、アップダウンにも富んだチャレンジングなコースが戦いの舞台だ。今季が来日初年度のアーテム・マルケロフにとっては初実戦の地となるが、大嶋和也とチームにとって、ここは特に好相性のコースといっている。一昨年のオートポリス戦では2位と3位でダブル表彰台を獲得している（大嶋は当時3位）。昨年のオートポリス戦は荒天で決勝中止となっているため、チームにとってはオートポリス戦における実質的な意味での連続表彰台を狙う戦いということにもなってくる。迎えたレースウィークエンド、今年もオートポリスの天候は不順。土曜は雨の影響で予選が実施されない状況に。予選は日曜の朝に延期され、実質ワンデー化された。

#7 アーテム・マルケロフ選手

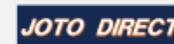
予選結果：20位扱い (予選ベストタイム：一分一秒一)

日曜朝に延期された時点で、予選は3段階ノックアウト方式ではなく、40分という走行時間枠のなかで出したベストタイム順に1~20位が決まる通常方式に変更された。そして日曜も朝は雨、ウエットタイヤでの戦いだ。セッションは赤旗中断が連発する流れとなり、そのなかでマルケロフもアクシデントに遭遇、マシン後部を損傷してしまう。順位的にはアクシデント前のタイムで13番目相当だったが、赤旗原因となったうちの1台としてのタイム抹消などの措置を受け、グリッドは20番と位置づけられた。

#8 大嶋和也選手

予選結果：11位 (予選ベストタイム：1分53秒200)

予選途中でセッションの5分延長措置が取られはしたが、ヘビーウエットな路面でマシンが上げる水煙により視界もままならない状況では、まともな予選バトルにはならない。そのなかでの大嶋のタイムは1分53秒200、12番手。阿部エンジニアによれば、コース最終セクターで前走車に詰まる不運がなければかなり上位にいった感触であった。数時間後に行なわれる決勝での挽回に向けて、わずかなインターバルを有効に使うってチームは入念に準備を進める。なお、他車のタイム抹消があり、正式予選順位は11位に。



◆ 決 勝

天気	曇り
コース状況	ドライ
気温	19度 (決勝スタート前)
路面温度	22度 (決勝スタート前)
決勝レース開始	14時00分 (フォーメーションラップ発進)
周回数	54周 (約250km)



#7 アーテム・マルケロフ選手

決勝結果：リタイア

チームはマルケロフのマシンを懸命に修復、決勝グリッドからのスタートは叶わなかったが、ピットスタートで3ラップほど遅れてのレース出走に何とか漕ぎ着ける。3周終了時、セーフティカー（SC）が出勤しているタイミングでマルケロフが発進。しかしトラブルにより、コースイン直後にストップという残念な事態に。

#8 大嶋和也選手

決勝結果：3位（所要時間：1時間30分37秒265、ベストタイム：1分31秒884）

決勝スタートを迎える頃には雨の影響はほぼなくなり、路面はドライ化していった。大嶋はミディアムのドライ用タイヤを装着して11番グリッドからのスタートに臨む。そして1周目終了時、予定通りにピットインして、ソフトへとタイヤ交換（給油はせず）。ドライ用タイヤの両スベック使用義務を果たし、ゴールまで走りきる作戦である。

2周目にSCが導入されるアクシデントがあり、ここで多くのマシンがピットへ。大嶋にとっては燃費的なことを含め、レースの流れが向いてきたといえる状況だ。SC先導のスロー走行は7周終了段階まで続き、大嶋は隊列のなかで7番手に位置。リスタート後に、抜いた／抜かれた等はあったが、7番手キープでレースを進めていく。

大嶋は23周目に3号車、25周目に38号車をそれぞれパスして5番手へ。33周目には4号車も抜いて4番手となった。さらに前の1号車を追いかけていく。前方2番手に位置していた65号車はまだピットインしていないマシンの一台で、4番手を走る大嶋にとってはこの65号車が順位争いのライバルという格好になってきた。相手がピットインしてコースに戻ってきた時に前にいられる位置を走っていれば表彰台圏内である。そして65号車が終盤50周目にピットへ。ここで大嶋は3番手となった。2番手1号車との差もジリジリと詰めてはいたが、これに迫るまでには至らず。とはいえ、見事に3位で今季初表彰台、オートポリスでは一昨年に続く3位ゲットを果たした。



大嶋和也選手のコメント

3位という結果は素直に嬉しく思います。スーパーフォーミュラに復帰して3年目ですけど、正直、昨年までは苦しいシーズンが続いていたところがありますからね。今年は阿部エンジニアが加入して、僕のマシンを担当してもらい一緒に戦っているわけですが、今回、持ち込みの状態からセットアップがすごく良かったんです。ですから今週はいける、という感触があったんですが、予選がああいったかたちでまともにアタックできないセッションになってしまい、そこはとても残念でした。

でも、決勝では作戦がうまく機能し、もちろん幸運もあったと思いますけど、コース上でオーバーテイクも決めてこの位置（3位）まで来ることができました。すごく満足していますし、チームに感謝しています。次の第3戦はスポーツランドSUGOでの戦いになりますが、僕のマシンは本当に良くなってきていますし、今回の状態をベースにして臨めばSUGOでもきっと速さを発揮できると思います。次こそは予選からしっかり上位に入って、優勝したいですね。

8号車担当 阿部エンジニアのコメント

金曜日のドライでの練習走行から調子は良かったですね。雨の予選も感触はわるくなかったですし、決勝レースのペースは速かったと思います。燃費をケアしつつ、1号車を追い、離れた位置にいる65号車とも戦うレース後半の展開でしたが、大嶋選手は本当によくやってくれました。速かったです。タイヤ交換作業も速かったですね。シーズンの早い段階でこういうレースができたことは大きいです。この先も、きっといい戦いができると思います。

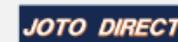
片岡龍也監督のコメント

マルケロフに関しては残念なレースになってしまいましたが、大嶋が素晴らしい戦いをしてくれました。やれることをやれた、そういうレースだったと思います。金曜の走行からドライでの速さに自信をもって臨めましたし、実際、決勝での大嶋のペースも速かったですね。SCが出たタイミングも我々の作戦には良かったです。大嶋は要所、要所でしっかり勝負できていましたし、本当に力強いレースを見せてくれました。燃費を気にしつつもペースがほとんど落ちなかったくらいでしたからね。

この流れと勢いをもって、次は2台そろってのいい結果を目指したいですし、大嶋に関してはさらにいい結果を、優勝を狙って行ってほしいと思います。

シリーズランキング

マルケロフ選手	一位／一ポイント
大嶋選手	5位／6ポイント
チーム部門	6位／6ポイント



◆その他サーキット内イベント報告

◆観客動員数

開催期間中 延べ入場者数 約6,150人

5月18日 土曜 (天気:雨) 2,450人

5月19日 日曜 (天気:雨~曇り) 3,700人

◆ピットウォーク

開催日程 5月18日 11:55~12:40

5月19日 10:55~11:45

◆キッズウォーク

開催予定 5月18日 17:15~18:00

(荒天スケジュール変更の影響で中止)

主催 JRP、オートポリス

アーテム・マルケロフ、大嶋和也

ピットロード開放エリアにて握手&サイン会、撮影会、グッズ提供等を行ない、今回も沢山のお客様をお迎えすることが出来ました。決勝レース開始前にはグリッドウォークも実施されています。

* 荒天で予選が行なわれなかった土曜日の16時15分から、全参戦選手による緊急のサイン会が開催されました。

